

緊急通報サービスの需要に関する調査

平成12年 5 月

緊急通報サービス需要調査研究委員会
(財)社会安全研究財団委託研究事業)

緊急通報サービス需要調査研究委員会構成（順不同）

委員長	守山 正	拓殖大学政経学部教授
委員	伊左次 達	総合警備保障(株)代表取締役専務 西日本業務推進本部長
委員	懸 昇一	セコム株式会社常務取締役東京本部長
委員	鈴木康弘	(株)警備保障新聞専務取締役
委員	小林寿一	前科学警察研究所防犯少年部 犯罪予防研究室主任研究官 現科学警察研究所防犯少年部補導研究室長
委員	田中法昌	警察庁生活安全局生活安全企画課 セキュリティシステム対策室長

凡 例

<緊急通報サービスの種類>

- どろぼう等不審者侵入時の緊急通報サービス：センサー等によりどろぼう等の不審者の侵入を感知し、すぐに警察等呼んでくれるサービス
- 路上その他外出先での犯罪被害、事故等又はそのおそれのあるときの緊急通報サービス：路上その他外出先で犯罪の被害や事故等に遭ったとき、又はそのおそれのあるときに押しボタン等を押すと、位置情報を割り出した上、すぐに警察等呼んでくれるサービス
- 高齢者、児童等の所在不明時の緊急通報サービス：高齢者や児童等が所在不明になったときに、あらかじめ高齢者等に持たせてあるセンサーを用いて位置情報を割り出し、すぐに警察、消防、家族・親族等呼んでくれるサービス
- 車の盗難時の緊急通報サービス：車が盗まれたときに、車に搭載してあるセンサーによって位置情報を割り出し、すぐに警察等に知らせてくれるサービス
- 車乗車中の交通事故時の緊急通報サービス：車に乗車中に交通事故に遭ったときに、車内のセンサーが自動発報し、押した人の位置情報を割り出し、すぐに警察、消防、家族・親族等呼んでくれるサービス
- ガス漏れ・火災等発生時の緊急通報サービス：センサー等によりガス漏れ・火災等の発生を感知し、すぐに警察、消防、ガス会社、家族・親族等呼んでくれるサービス
- 自宅における急病時等の緊急通報サービス：自宅で急病で苦しくなったときなどに、緊急ボタンを押すと、押した人の住所等を割り出し、すぐに消防、家族・親族等呼んでくれるサービス
- 路上その他外出先での急病時等の緊急通報サービス：路上その他外出先で急病で苦しなくなったときなどに、緊急ボタンを押すと、押した人の位置情報等を割り出し、すぐに消防、家族・親族等呼んでくれるサービス

<その他>

- 被害等経験者：緊急通報サービスの対象となる事件・事故等の被害等に遭った経験のある「者」（個人及び事業者をいう。以下同じ。）
- 非被害等経験者：緊急通報サービスの対象となる事件・事故等の被害等に遭った経験の無い者
- （緊急通報サービスの）利用：それぞれの緊急通報サービスにつき、実際に緊急通報サービスを受ける契約を締結している者

- 利用者及び利用希望者：それぞれの緊急通報サービスにつき、既に「利用」（上記参照）している者及びまだ利用していなくても本利用調査に対する回答において「ぜひ利用したい」又は「できれば利用したい」と回答した者
- 非利用希望者：それぞれの緊急通報サービスにつき、まだ利用しておらず、かつ、本調査に対する回答において「余り利用したくない」又は「全然利用したくない」と答えた者

目 次

1	調査の目的・趣旨	1
2	回答者の概要	3
3	事件・事故の被害等の経験	5
4	緊急通報サービスの現在の利用の有無	7
5	緊急通報サービスの利用の希望の有無	13
6	誰のために利用するか	24
7	緊急通報サービスを利用したくない理由	25
8	価格を理由に利用したくないとする人について	37
9	現在受けている警備業務	39
10	まとめ	40

参考資料

- ・ 緊急通報サービスに対するアンケート調査（個人用）
- ・ 緊急通報サービスに対するアンケート調査（事業者用）